

子どもの活動拠点整備と交流促進によるまちの健幸づくりプロジェクト

事業の概要・背景

【概要】

「さくら近隣公園」など公園施設をはじめ、教育・保育施設や子育て支援センター等の子育ての拠点を核としつつ、旧学校施設や図書館、地域の集会所も活用し、子どもの「遊び」「体験」「スポーツ」を通じた居場所づくりと体力向上を図るとともに、大学生を含む多様な主体との連携による多世代交流を促進することで、先行事業の効果を市内全域(主要5地区)に拡大しつつ、「子育て支援」と「健康づくり」の政策間連携による、住むことで「健康」で「幸せ」になれる「まちの健幸づくり」を進める。

【背景】

- 人口減少・少子高齢化の加速と併せて出生数の減少が進み、合計特殊出生率も1.25(2015-2018)と全国・府平均を下回る結果となっている。
- 市民意識調査などでは、子どもの遊び環境の充実が求められているとともに、将来的に就労を希望する母親の存在も確認できる。
- 令和2年度に本交付金を活用し、男山地区「さくら近隣公園」において雲梯の整備や園内こども動物園の動物補充などの施設充実を図った。
- 市では、「スマートウェルネスシティ(住むことで健幸になれるまち)」の計画に基づき、「人の健幸づくり」と「まちの健幸づくり」を推進。

主な事業

- ◇: 交付対象事業
- ◆: 関連事業

- ◇ さくら近隣公園「子育て×健康づくり」イベント
- ◇ 教育・保育施設等の芝生化整備
- ◇ 子育て支援センター遊具等環境充実
- ◇ 子どもわくわく教室(スポーツ教室)

成果指標

- 出生数
- 子育て世帯の転出入者数
- 子ども・子育て支援センター延利用者数

令和3年(基準値)	令和6年(目標値)
350人	400人
▲190人(R2)	0人
10,306人	11,300人

モデル性に係る取組(実現性・継続性・創意工夫)

ポイント

先行事業の効果拡大と市内全域への事業展開
さくら近隣公園を中心に、市内主要地区の拠点施設で事業を展開

「子育て支援」と「健康づくり」の政策間連携
「遊び」「体験」「スポーツ」を通じた子どもの居場所づくりと体力向上

大学生など多様な主体との連携による多世代交流の促進
関西大学の学生や協定締結事業者等との連携による交流促進

子どもも親も、関係する様々な人が、心身ともに「健康」で「幸せ」になれる「まちの健幸づくり」を推進

